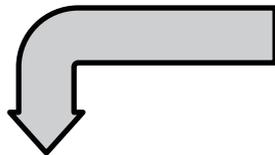
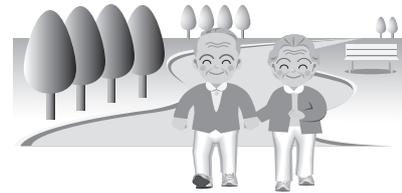


## 【5】鹿町地区で取り組む課題と将来の姿

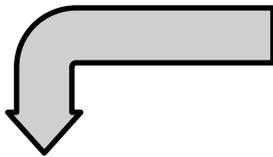
### ①生活しやすい 環境づくり



- ◆商店が少なくなり、町内での買い物客も減少しており、公共交通機関も不便なため高齢者の買い物が困難となっている。
- ◆イノシシが多く民家におりてきている。
- ◆釣り人のゴミ出しのマナーが守られていない。

5年後のまちの姿 【目標】	事業・取り組み		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
ご近所同士、誘い合って 地元で買い物ができ、楽 しめるまち	関係団体の協力を得 て、町内の商店にお ける配達サービスなど の実態を把握する。	配達サービスマップ (買い物マップ) を作 成し住民に周知する。	ご用ききボランティア の育成を検討し、町 内商店での買い物を 推進する。
イノシシ被害が少なく、 一年通して美味しい農産 物がとれるまち	イノシシが多く出没 するところなどの実 態を把握する。	道路沿いや民家周辺の草を切り、イノシシ の隠れ家をなくす。(特に空き家周辺の環境 整備については、防犯・防災にも繋がる。)	
きれいな海を汚さない。 美味しい魚がとれるまち	市の環境部などの協 力を得て、講習会を 実施する。	保健環境連合会の協 力を得て、看板を設 置する。	広報誌などを活用し、 ゴミを持ち帰るなど環 境問題に関する意識 づくりを行う。

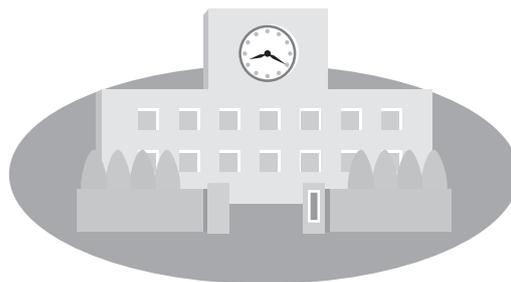
## ②人と人との ネットワークづくり



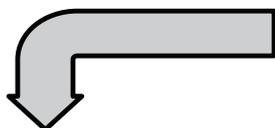
- ◆一人暮らし、高齢者世帯が増えており、孤独死や火事が発生した場合に心配。
- ◆母子家庭が多くなってきており心配。

5年後のまちの姿 【目標】	事業・取り組み		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
ふれあいの場があり、ご近所同士が笑顔で声を掛け合い、支え合い、孤独死・孤立死“0”（ゼロ）のまち	各地区並びに各団体へ、見守りなどについて説明する。 講演会などの実施を検討する。	民生委員児童委員などの協力を得て、食事会やサロン活動などの新規開設及び継続に努める。	保育園の協力を得て、世代間交流を含めたサロン活動などを視野に入れ、居場所づくりに努める。
気軽に相談ができる場所があり、子ども達が伸び伸びと元気に育つまち	民生委員児童委員、主任児童委員、地区長の協力を得て、実態把握を行う。	民生委員児童委員をはじめ各種相談員並びに相談所のPR及び広報啓発に努める。	地区内における相談連携システムなどの整備及び強化を図る。

### ③安全で安心な 町づくり

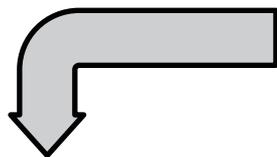


- ◆街路灯が少なく子ども達の登下校が心配。
- ◆美しい自然は多いが、海や山の手入れが不十分であり子どもたちが遊べない。



5年後のまちの姿 【目標】	事業・取り組み		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
地域での見守りが強化され、子ども達が安心・安全で学校に楽しくいけるまち	民生委員児童委員、PTA、育成会などの協力を得て、モデル地区を選定し、実態調査を行う。	民生委員児童委員、PTA、育成会などの協力を得て、モデル地区の通学路マップを作成する。	モデル地区を検証し、全地区の通学路マップの作成並びに世帯配布により、登下校時の安全管理を
美しい自然の中で、子ども達が元気にたくましく遊べ、賑わいのあるまち	各団体の協力を得て、山林、海などボランティアを募り整備を行う。	学校、PTA、老人会などの協力を得て、昔遊びや自然の中での体験学習などの企画や場の提供に努める。	

## ④みんなが集まる 場所づくり



- ◆隣近所との交流が疎遠になりがちであり、地域での触れ合う機会が少ない。
- ◆世代を超えて一緒に楽しめる行事が少なく、また、若い世代の地域活動や地域行事への参加が少ない。
- ◆みんなが参加できる地域の公民館活動が少ない。

5年後のまちの姿 【目標】	事業・取り組み		
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
顔があったら笑顔で挨拶。「あいさつプラス1運動」のまち	学校の協力を得て、鹿町地区の「標語」などを募集する。	家庭、学校、地域において、あいさつ運動を推進する。	民生委員児童委員などの協力を得て、ネットワークなどの見守り活動の強化と推進を図る。
少子高齢化が進む中、若い世代の考えを取り入れたイベントで地域の若返りを図り、世代を超えて心と心のふれあいができるまち	各団体の協力を得て、実施プログラムの調査と検討に努める。	スポーツ振興課、学校、各団体の協力を得て、ニュースポーツなどの世代を超えた交流の場づくりに努める。	
地区の拠点となる公民館での活動が充実し、活気あふれるまち	公民館長などの協力を得て、実態把握を行う。	広報誌などによる公民館活動のPR及び広報啓発を行い、実態調査を踏まえて、年間を通じて誰もが参加できる行事の企画を行う。（地産を使った郷土料理など）	